



私は大勢の子供を持つてゐますが、子供の家庭教育法として一番大切だと信じてゐる事は、家庭を子供達にとつて、いくつになつても一番楽しい、賑やかな場所であるといふ風に思はせる事の出来るように、所謂温かいものにしてをく事だと思ひます。それで子供が欲しいといふようなものは事情の許す限り買つて與へてやる。こうして色々なものを家庭内

に揃つてをく。之は子供が家庭から外部へ心を取らない爲の方便として至極よいやうです。

夜など家庭で「お茶の會」といつたようなものを、しよつちうやつてゐます。大勢子供が居り又大抵子供のお友達といつたようなものが尋ねて來るものですから、家庭のお茶の會が結構賑やかなものになります。そのお茶の會では夫々子供達の十八番を演つたり、その日の出来事などを話しあつたりするのですが、始終やつてゐる事ですから決してぎこちないものにならず、それこそ和氣霽々たるものです。

斯うしてゐると夜置獨で外出したり、カフェーに行つたりするといふような事はないやうです。

それから嫁や梨の選擇ですが、之は第

一に相手のお友達を知り、それからそのお友達仲間での仲介を願ふこととする。友達から立てられるような者なら間違ひありません。これは單に嫁選び、聲選びの場合ばかりでなく會社員採用の場合でも同じだと思ひます。(松木幹一郎)

私の一番めの娘は昨年第一の女學校を卒業しましたので東京の學校へ進ませましたが、之はまア色掛けのつもりです。……といふのは臺灣色を少しでも失くさうといふのも理由の一つですが、女學校教育は今ではもう女子の本當の意味での普通教育になつて了ひ會社員採用の場合でも同じだと思ひます。

(松木幹一郎)

女學校教育は今ではもう女子の本當の意味での普通教育になつて了つてゐますのに、男子の方は中等學校から上級學校へと、ドシ／＼高等教育を受けられ

るので、女子も女學校教育まで、物足りなくなりました。此意味に於て臺灣での女子教育は不足してゐるのではな
いでせうか。

尤も内地の上級學校へやる事も必要だ
と思ひます。

それは色揚げの爲に強ち臺灣色を消す
爲ばかりではありません……實は私の上
の娘も昨年第一の女學校を出ると東京の
専門學校へやりましたが、親の元を遠く
離れて勉強させるといふところに、娘に
とつても又親にとつても非常に苦悶
を得るように思はれます。つまり一緒に
居つた時の親、遠く離れてからの親、そ
こに逢つた親子親なり愛情なりが湧き出
るものですね。

それから臺灣で嫁入するにしても相
手の方が内地の學校出の方でもある場合

東京がどつちを向いてゐるかも知れない
のでは話が合はないといふ事にもなりま
すし、事情が許す限り臺灣の女學校を卒
業してから、更に内地の學校へやる事は
有意義だと思ひます。 (中瀬能子)

習慣といふものはどこでもさうで
すが、冠婚葬祭といふような儀式に、一
番濃厚に發揮されるものです。それだけ
になか／＼改め難いものですが、本島に
於ける舊慣を見るに、冠は文字の上に
あれども實際になし、婚の場合はドン
／＼改められつゝあるが葬祭は依然とし
て舊態を脱し得ない。之には理由がある
婚は喜びの儀式であり豫ねでの準備期間
もあるので大抵は本人や友人の意向で新
らしい儀式を取り入れて行ひ得る、それ
故最近は目醒しい變り方で神前結婚もあ
れば教會結婚もあり、披露も料理屋でや

るのもあれば、自宅で行ふものもある。金
の如きも最早問題でなくなりつゝある
ところが猶儀は何分突差のことで準備
もなく且つ悲しみの中に行はれる。それ
故愈々ゆう風に改めたらば、と周囲の人
なり、又地主なりが考へたにしても場合
が場合丈に言ひ出せない。それに此場合
儀式に對する慣習を重んずるのはどこで
も婦人連中で、この婦人の黙守する因習
は一すやそつとで除けない。

次に祭であるが之は又相手が神様であ
る故、様々の迷信に囚はれて慣習の改習
は愈々困難である。而して祭の儀式に關
しても婦人達の干渉が非常に多いもので
ある。
故に本島の舊慣打破は先づ葬祭から、
葬祭の儀式改革は婦人から、といふ事に
なる。何れにしても婦人の覺醒が先決問

題だと思ひます。

(林茂生)

經濟 流線型

A 二十一日の地震で中南部列車不通のため東北驛で拂戻を行った。金額百四十圓だが、此の内、割引を受けた者が拂戻の際金額を受取つて知らぬ顔をした人十數名あり。此がため東北驛では十數圓の過拂をなし閉口したらうだが、此の割引を受けた者は官吏、學生等の道徳觀念の高い人達だとすれば、全くどうかと思ふ。

B 十五日夜鐵道ホテルで中根三和頭取が總督以下多數官民を招待晩餐會を開いたが、中根氏の知らぬ事とは思はれるが、三和銀行支店長は金剛課の無智の職官まで招待しながら平素特に歳末等々は警察の派出まで受け一番御厄介になる瀧田署長を招待しないのはどうかと思ふ。

被 雇 度

文藝士 且下中學校奉職中、中等學校及高等教員免許狀あり、人物責任保證す、本人の希望に依り東北近傍の家庭、殊に在学中にして不成績及び中學校受験準備中の子弟の豫備教育、本島人家庭殊に可。姓名在社御一顧度賜。(電話二四三六)

(原) (稿) (纂) (集)

本誌は廣く島内の文藝に志す人の爲に、その作品の發表機關たらんとするものであります。從來文藝の大衆的發表機關といふものはなかつたやうです。これが本島に於ける文藝の勃興を見ない、所以でないかと思はれます。本誌は茲に鑑みるところあり、左の諸項の原稿を廣く一般に募集し、夫々その道の權威者に依頼して選を乞ひ、佳作は之をトシ、本誌上に發表して汎く江湖に紹介することとしましたから濟つて御投稿を願ひます。

小 短 俳 詩 句 歌 說

童話、童話

實話、笑話

- 注意事項
- 一、小説、實話、實話、詩、童話等は必ず一行二十字詰原稿用紙を用ゐること
 - 二、一枚の紙に短歌、俳句等を併記せず、俳句は俳句、短歌は短歌で必ず別々の用紙を用ゐること
 - 三、住所、姓名、雅號等ハツキリ解り易く書くこと、紙上ペンネーム自由